

株主各位

第 46 期定時株主総会へのご出席御礼

2026 年 6 月 26 日に開催いたしました「第 46 期定時株主総会」および株主総会終了後に開催された「経営近況報告会」には、お足元の悪い中、約 40 名の株主様のご出席を賜り誠にありがとうございました。

第 46 期定時株主総会では、決議事項の第 2 号議案、第 3 号議案において質疑応答が行われ、議案審議の後に全議案が承認可決されました。

経営近況報告会では、各担当取締役より、中期経営計画 2026 に沿ったご説明を差し上げ、ご出席の株主様から多くのご意見・ご質問をいただきましたので、その主な内容をご報告いたします。

〈第 46 期定時株主総会〉

決議事項に関する質疑応答

第 2 号議案

[問] 本社を移転する理由は何ですか？マーケティングの面からも首都圏に本社があったほうが有利であると感じています。

[答] (高橋代表取締役社長)

本店の登記を双葉に移させていただき、重要なマーケティングや営業部員は在宅ワークと東村山事業所にナノマテリアル事業がございますので、拠点を利用して、今後段階的に本社機能についてもテレワーク等を交えながら検討を進めていきたいと考えております。1 度に全ての機能を移すという内容ではございません。

もう 1 つ、何故かということについてですが、最低のコストで最大の利益を上げるべきであると考えており、現在 DX 化が進む中で、在宅ワークを進めることによって、東京のオフィスのコストを下げられるということも理由の 1 つでございます。どこにいても仕事ができるという環境を整えることを進めていきたいと考えております。

第 3 号議案

[問] 低迷した株価の状況をこれからどうしていくのか、考えをお聞きしたい。

[答] (高橋代表取締役社長)

株価は市場が決めるものですので、会社としてのコメントは控えさせていただいておりますが、業績を立て直し、新しい事業を立ち上げて、会社を良くしていくことが責務であり、そこを通して株価が上がっていく状況を作ればと考えております。この後の経営近

況報告会でご説明しますカーボンナノファイバーの現在の状況、新たにマーケティングを進めている CMC 等の新しい事業を大きくしていき、業績を上げ、株価に繋がればと考えております。

[問] 数年前に中期経営計画で株価を上げると書いていて、株価が上がっていない。しかも株価が上がったらワラントして株価を大きく下げている。そのことをどのように考えているのか？

[答] (高橋代表取締役社長)

新しい事業を立ち上げ、それまでやっていたテストメディアや CD・DVD の事業が縮小傾向になった時に新しい事業に移行していく中で、積極的に投資を行ってまいりました。ワラントについては、新しい事業を行っていく中で資金が非常に重要であるため実施させていただいたものでございます。株価の状況については非常に憂慮しておりますので、今後業績を上げることで回復を図りたいと考えております。

[問] 株価が高い所で購入している、本当に株価が上がっていかないとどうしようもない。昨年の株主総会で「少しお待ちください。話せないけど結果を出します」と聞いたが、今期も前期と同じように推移していくのか？何か具体的な施策はあるのでしょうか？

[答] (高橋代表取締役社長)

ナノマテリアル事業の資源・材料販売で 2 件の内示をいただいております。中期経営計画 2026 でナノマテリアル事業の売上は、第 46 期 1 億円の売上でありましたが、第 47 期は 5 億円まで伸びる予定であります。これは確かな内示をいただき下期から数字に表れますので、見ていただければと考えております。昨今、景気の問題で、電池業界等で遅れ遅れになってきているのは事実であります。我々の材料はどうしても外的要因に左右されることが発生してしまいます。しかし今回資源・材料販売の方で良い情報もございます。また、株主様と長くお付き合いさせていただきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

〈経営近況報告会〉

中期経営計画 2026 のご説明に先立ち、代表取締役社長の高橋よりご挨拶 [要旨]

今期の決算の内容につきまして、非常に不甲斐ない結果となり大変申し訳ございませんでした。中国が思った以上に景気が下振れました。

これからご説明させていただく中期経営計画 2026 の中で、光が見えてきた部分をご理解いただけるのではないかと考えておりますので、お付き合いいただきますようお願いいたします。

たします。

質疑応答

[問] 断熱材事業で特に太陽光パネル製造向け拡散炉ヒーターモジュールが売上の中核を占めていると思いますが、顧客である太陽光パネルメーカーの投資状況をどのように見通しているのか、中期経営計画 2026 の断熱材事業の売上はどの程度保守的に見ているのでしょうか。

[答] (高橋代表取締役社長)

中国の太陽電池メーカーの将来的なところは、現時点では非常に悪い状況であると見ています。米中の通商政策にも引っかかっているものですし、以前は迂回してアメリカに納めていた業者もあったようで、アメリカ国内に工場を建設して生産する話も出てきましたが、あまり進んでない状況のようです。そのため、元々生産していますセラミックファイバーを成型してボードやブランケット等のボリュームの大きいものをメインにしてやっていくこと、さらに新製品の販売でヒーターモジュールの減少分をカバーしていくことを考えております。

売上につきましては、第 47 期で 24 億 1 千 4 百万円を目指しております。これは中国国内と日本国内を合わせた数字になります

断熱材事業は中国国内の売上が大きいため、中国経済に左右されてしまいますが、確度が高いと考えております。

[答] (吹野取締役)

ヒーターモジュールですが、2023 年の頃は 1 本 54,000 円で販売していましたが、今は同じ製品で 1 本 24,000 元位になっています。当時はアルセラ 1 社だけが製造していましたが、今は 40 社位で同じものを製造できます。今年は注文を取っても利益が少ないため、新製品の開発と量産販売で利益を確保していきます。計画値に含めているヒーターモジュールの売上は 20%程度ですので、保守的な見積もりであると言えます。

[問] 計画と実績の数字がズレている。昨年は 45 億の計画から下方修正で 25 億になり、期末で 23 億になった。これだけズレるのは環境を読み切れていないことと自社の力量が見えていないのではないか？また、毎年中計の数字をずらして株価が上がる訳がない。今期の計画で、下方修正はないのか、責任を持ってやってほしい。

[答] (高橋代表取締役社長)

トップメッセージにも書かせていただいたのですが、見通しを読むことが当社の弱い部分であります。

現在アルメディオでやっていることは、新規事業であるため、サンプル出荷が多いことがございますが、資源・材料販売で2件の大きな採用は固く予想ができるようになりました。中国でのヒーターモジュールですが、真似ができず寿命が長い良い製品だったのですが、先ほど吹野がお話ししましたとおり、40社で同じものが作れます。

私が見誤ったと考えているのは、25年中国でやってきていますが、中国のスピード感が出てきて、資本を持つようになったことが大きく、その部分を見誤ったことを反省しております。

ご意見は真摯に受け止め、改善を進めていきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

[問] 先ほどの説明の中でありました、導電材とはどのようなものか教えてください。

[答] (深川取締役)

導電材は電気を通す材料で、ナノマテリアルは電気も熱も通す材料ですので、これを例えばフィルムに添加しますと導電フィルムになり、電気を通しやすくなります。

[問] ナノマテリアルをケーブルに加工して、銅の代わりに使うことはできるか？

[答] (深川取締役)

ナノマテリアルでは900wで銅は400wなので、2倍以上の材料ではありますが、低価格のケーブルに使用するのには難しいと考えています。もう少し細かな材料に向いていると考えております。

[問] 新しいものに積極的に挑戦する会社だと思っていますが、地政学リスクについて、特に中国での競争激化は大変で、生き残っていけば世界に通じる会社になると思っています。吹野取締役にお聞きしますが、競争激化についてどのように考えられているか、どう挑戦していくか心意気をお話ししてください。

[答] (吹野取締役)

米中摩擦や日本と中国の間に問題はありますが、我々の蘇州での工場では特に問題を感じていません。政府からも言われることはありませんので、色々な製品を開発して、アルセラとアルメテックの業績を上げていくことと、開発は本社と共同で行い頑張ってもらいますので、よろしくお願いいたします。

[問] 株主優待について、現状は5年以上でQUOカード500円となっていますが、長期保有の効果をどのように認識していますでしょうか？

5年の保有は厳しいとっていて、5年持っていてくれる株主がどれだけいるのか、それに対してQUOカード500円程度であれば廃止するか、条件を上げてでも良いので1年にして多くの個人株主に保有してもらうようにするため、見直しが必要かと考えております。

[答] (関取締役)

以前の経営近況報告会でも同様のご質問を頂戴いたしまして、その時の回答と重複いたしますが、無配当が続いており、長くお持ちいただいています株主様に何かしらできないかということで、まずは持株数に関係なく長くご支援をいただいている株主様に感謝の気持ちをお示ししたいということから始めさせていただきました。

分配可能額が無い中での株主還元になりますので、法的・通例的に色々な制限がございまして、現状の優待内容となっておりますが、始めた時と比較しますと、厳しい業績ながらも先が見える状況になってまいりましたので、2028年の復配がクリアできましたら、株主優待も見直しをさせていただき、先ほどおっしゃられました株数に応じて等につきましても検討していきたいと考えております。

また、株主優待の内容は株価にも繋がると認識しております。会社として株価云々についてのコメントは控えるべきものですが、そのような意味でも一時的な効果とならないよう様々な角度から検討したいと考えております。

[問] ナノマテリアルでこれが売りだと思っている。これが他社と差別化できているものをお話してください。

[答] (深川取締役)

CNFの高分散タイプは弊社にしかできない材料であると考えております。カーボンナノチューブ等、他社で作られていますが、弊社ほどの分散ができるものはありません。電池や塗料にしても弊社のものを入れることで分散し、均一なものができますので、均一性、分散性はCNFが一番であると考えており、注力してまいります。

[問] 株主優待ですが、毎年QUOカードをいただいておりますが、QUOカードは使いにくいので他に代えていただけないでしょうか？

[答] (関取締役)

長くお持ちいただきましてありがとうございます。
先程いただいたご要望と併せて検討してまいります。

[問] CMCの事業化はいつくらいを目途に考えられているのでしょうか？

[答] (星島取締役)

今期と来期はサンプル提供となるため、現時点で具体的なことは申し上げられませんが、個人的には 2028 年頃に事業化をさせていただきたいと考えております。

[問] ナノマテリアルで、展示会で評判が良いと言っていますが、本当にそうなのか？なかなか売れないのは、何か問題があるのか？ここが問題で突破すれば花開くというような話を聞きたい。

[答] (深川取締役)

CNF は新規材料で世の中にない材料のため、展示会では評判が良い。この前の展示会では 200 社以上の方と名刺交換させていただき、サンプル販売を行ったりしております。その内の 10% で継続評価をしていただき、評価をしていく中で、評価項目が増えてきます。そこを突破すれば本格採用が見えてきます。今までにない材料ですので、採用になるまでの評価項目をクリアしていかなければ本格採用になりませんので、長い目で見ていただければと考えております。

[問] 中国子会社の資本金が US ドルで記載されていますが、何か当局から指導があるのでしょうか？日本円または中国円で良いのではないかと感じるので理由を教えてください。

[答] (関取締役)

アルセラの設立時から US ドルです。日本円でも良かったのですが、円にしますと日本の企業のイメージが強く、中国に根を張って地元企業としてやっていくという意気込みで立ち上げていますので、そのためには円以外の方が良いのではないかとということと、取引先からワールドワイドなイメージが持たれるよう US ドルの表記としたと聞いております。

[答] (吹野取締役)

外資が中国に投資をした場合は殆どが US ドルになります。例えばイギリスの企業が投資しても US ドルになります。

[答] (高橋代表取締役社長)

当時は、当局からは円でもドルでもいいと言われていました。先ほど関が申し上げましたとおり、現地に根差してやっていくこと、アルセラは現地の材料を使い、現地の人を雇用し、現地の設備で生産する、この 3 つをやっていけば長くやっていけると考えて作った会社で、そのために US ドルにしたのが経緯でございます。

[問] 東村山事業所はどのようなことをやっているのでしょうか？

[答] (深川取締役)

東村山事業所には技術と営業が在籍しております。東村山では試作品を作り、お客様からのご要望等をすぐに反映できるようにしています。そして、東村山で作成したレシピを基に双葉工場で製造を行っております。

主な質疑応答は以上でございます。

様々なご質問・ご意見をいただき、ありがとうございました。

今回の株主総会では、途中、会場の火災報知器のトラブルがあり、ご出席の株主様に心配をおかけし申し訳ございませんでした。

今後も、株主総会および経営近況報告会を株主様と経営陣の対話の場と位置付け、オープンに運営をしてまいりたく存じます。併せて、より一層円滑で安全な株主総会運営に努めてまいります。

いただきましたご意見等は真摯に受け止め、株主の皆様のご期待に添えるよう、役職員一同、社業の発展に邁進する所存でございますので、引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2026年6月29日
株式会社アルメディオ
代表取締役社長
高橋 靖